

授業科目名	対象学科・専攻	年次	期別
保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health)	児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	前期 後期
科目	施行規則に定める科目区分又は事項等		
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員名
			手島 史子
演習	2	必修	担当形態
			単独
全体目標及び概要			
<p>幼児期の子どもの発達のと在り方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のと在り方、あそびを軸にした保育のと在り方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。</p>			
一般目標及び到達目標			
一般目標	幼稚園教育要領の健康領域を核にして、「子どもたち自らが運動あそびであそびこむことができる力を育てる」ということを実践的に学ぶ。そして、運動あそびを子どもたちが主体的・対話的にとりくむための保育のあり方を実践で可能にする資質・能力を身に付ける。		
到達目標	<p>(1) 「健康領域」を踏まえた保育のと在り方を理解している。</p> <p>1) 旧「健康領域」と新「健康領域」の相違を知り、今日的な保育のと在り方を理解している。</p> <p>2) 「健康領域」のねらいを理解している。</p> <p>3) 「健康領域」の内容等を理解している。</p> <p>(2) 「健康領域」のねらいと内容及び幼児期の発達の特徴を踏まえ、幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のと在り方を理解している。</p> <p>1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解している。</p> <p>2) 対話的な保育のと在り方の重要性を理解している。</p> <p>(3) 幼児期における運動あそびの重要性とその指導のと在り方を理解している。</p> <p>1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>2) 幼児期の運動あそびの指導のと在り方を理解し、指導案を作成することができる。</p> <p>3) 運動あそびと「健康領域」の10項目の内容の関連性を理解している。</p> <p>(4) 「発達段階」という視点から、発達における「接続」について理解している。</p> <p>1) 発達段階という言葉の意味を理解している。</p> <p>2) 発達段階に応じたあそびのと在り方を理解し、評価の考え方を理解している。</p> <p>3) 「おにごっこ」あそびの必要性和発達段階に応じた指導のと在り方を理解し、指導案を作成する。</p> <p>4) 「接続」という観点から、幼稚園教育と小学校教育の相違に関して理解している。</p>		

授業内容と進め方【前期】		
回数	授業内容	到達目標の番号
1	幼稚園教育要領「健康領域」の今日的意義	(1) - 1)、(2) - 1)
2	幼稚園教育要領のねらいについて	(1) - 2)
3	幼稚園教育要領の内容等について	(1) - 3)
4	健康領域における幼児期の発達的特徴	(1) - 2)・3) (2) - 1)
5	幼児期における運動あそびの重要性	(1) - 2)・3) (2) - 1)、(3) - 1)
6	運動あそびと「具体的な活動を通してわかる」ということ	(1) - 3)、(2) - 1)・2) (3) - 1)・3)
7	運動あそびと健康領域の内容の(1)から(5)をつなげる保育	(1) - 3)、(2) - 1) (3) - 1)・2)・3)
8	運動あそびと健康領域の内容の(6)から(10)をつなげる保育	(1) - 3)、(2) - 1) (3) - 1)・2)・3)
9	健康領域の内容(7)の考え方と指導の在り方	(1) - 3)、(2) - 1) (3) - 1)・2)・3)
10	教師中心の保育と子ども中心の保育について	(1) - 2)・3) (2) - 2)、(4) - 1)
11	保育実践報告にみる子ども中心の保育の在り方	(2) - 2)、(3) - 2) (4) - 1)・2)・3)
12	保育実践報告の今日的意義	(2) - 2)、(3) - 2) (4) - 1)・2)・3)
13	幼児期の発達段階に応じた幼児の表現の仕方について(総論)	(1) - 2)、(2) - 1)・2) (4) - 1)
14	幼児期の発達段階に応じた幼児の表現の仕方について (運動あそびの面から)	(1) - 2)、(2) - 1)・2) (4) - 1)
15	対話的保育の今日的意義とその運動あそびへの応用について	(2) - 2)、(3) - 2)
成績評価 方 法	授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解)20%、レポート(思考力・判断力)30%、定期試験(知識・理解)50%	
テキストおよび 参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</li> <li>・高橋弥生・嶋崎博嗣編『コンパクト版保育内容シリーズ健康』一藝社</li> <li>・牧野共明・手島史子・子安崇夫『健康領域の理論と実際』山口短期大学</li> <li>・授業時に毎回必要に応じた資料を配付する</li> </ul>	
メ ッ セ ー ジ な る	授業を受けながら、「自分の頭で考え・表現する」ということが「当たり前のようにできる」ということを意識しながら授業を進める。日頃から、様々な場面で、いろいろと考えながら活動していくという事に心がけること。	

授業内容と進め方【後期】		
回数	授業内容	到達目標の番号
1	子ども中心の保育と対話的保育について	(1) - 1) (2) - 2)
2	運動あそびにおける「対話的保育」の重要性	(1) - 1) (2) - 2) (3) - 1)
3	発達段階に応じた運動あそび(乳児期から幼児期への移行の時期を中心に)	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)
4	発達段階に応じた運動あそび(2歳児から3歳児への移行の時期を中心に)	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)
5	発達段階に応じた運動あそび(2歳児の時期を中心に)	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)
6	発達段階に応じた運動あそび(3歳児の時期を中心に)	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)
7	発達段階に応じた運動あそび(4歳児の時期を中心に)	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)
8	発達段階に応じた運動あそび(5歳児の時期を中心に)	(3) - 2) (4) - 1)・2)・4)
9	今日の子どもの状況を踏まえた「おにごっこ」あそびの必要性	(3) - 1) (4) - 3)
10	認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導の在り方(段階Ⅰの在り方)	(4) - 1)・2)・3)・4)
11	認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導の在り方(段階Ⅱの取り組みを中心に)	(4) - 1)・2)・3)・4)
12	認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導の在り方(段階Ⅲの取り組みを中心に)	(4) - 1)・2)・3)・4)
13	認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導の在り方(段階Ⅳ・Ⅴの取り組みを中心に)	(4) - 1)・2)・3)・4)
14	発達における「接続」について考える	(4) - 4)
15	幼稚園教育から小学校教育への「接続」を考える	(4) - 4)
成績評価方法	授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解)20%、レポート(思考力・判断力)30%、定期試験(知識・理解)50%	
テキストおよび参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</li> <li>・高橋弥生・嶋崎博嗣編『コンパクト版保育内容シリーズ健康』一藝社</li> <li>・牧野共明・手島史子・子安崇夫『健康領域の理論と実際』山口短期大学</li> <li>・授業時に毎回必要に応じた資料を配付する</li> </ul>	
メッセージ	授業を受けながら、「自分の頭で考え・表現する」ということが「当たり前のようにできる」ということを意識しながら授業を進める。日頃から、様々な場面で、いろいろと考えながら活動していくという事に心がけること。	

